

オオクチバスが特定外来生物に指定
されたらどのようなことが想定されるか。

環境省編「改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）：汽水・淡水魚類2003」を検討した結果、R. D. B記載種98種についての「生存に対する脅威と存続を脅かしている原因」として考えられた279件のうち捕食者としてのブラックバスによる「捕食者侵入」をその原因として考えられるものは13件であった。その13件は単独で原因として記載されているものではなく「河川開発」51件、「水質汚染」46件、「埋立等開発」38件等と併記されている。

生物多様性の保全の観点からオオクチバスを特定外来生物に指定することがぜひ必要という意見があるが、その結果というか淡水魚類に関する生物多様性の保全に対する効果を針小棒大的に評価しようとしているのではないか。

生物多様性保全の観点から現在重要なのは「生存に対する脅威と存続を脅かしている原因」の95%を超す河川開発、埋立等開発そして水質汚染等に対して早急に厳しく取り組むべきではないだろうか。

オオクチバスが特定外来生物に指定されたら淡水魚の生物多様性保全はそれで事足りりとする風潮が強くなり、95%の原因の防止および中止への活動が弱まることが危惧される。

なお、上記の検討に用いた資料は2003年5月の第5回移入種対策小委員会において資料3(水口委員資料)として公表されたもので環境省のHPより引用し添付する。

R. D. B. のカテゴリ—登録魚類(汽水・淡水魚類)

新たなカテゴリとその定義 (2003年)	参考:旧カテゴリ (1991年)	
「絶滅(EX)」	3	絶滅種 (Ex) 2
「絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)」		絶滅種危惧種 (E) 16
「絶滅危惧ⅠA類 (CR)」	19	
「絶滅危惧ⅠB類 (EN)」	29	
「絶滅危惧Ⅱ類 (VU)」	18	危惧種 (V) 6
「準絶滅危惧 (NT)」	12	希少種 R 17
「情報 (DD)」	5	
付属資料「絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)」	12	地域個体群 (LP) 7
合計	98	48

1991年に登録され2003年に削除された魚種はサツキマス、イワメ、ユウフツヤツメである。

R.D.B.に見る生存に対する脅威と存続を脅かしている原因の変化

存続を脅かしている原因	タイプ区分のコード	1991年		2003年	
		件数	%	件数	%
森林伐採	11			12	4.3
ダム建設	25	8	13.1	20	7.2
埋立等開発	12, 14, 15, 23	4	6.6	38	13.6
河川開発	13	28	45.9	51	18.3
道路工事	24			28	10
農業汚染	32			11	3.9
水質汚染	31	8	13.1	46	16.5
湧水の枯渇		1	1.6	6	2.2
観賞用捕獲	41	2	3.3	20	7.2
漁獲圧力		3	4.9	8	2.9
捕食者侵入	52	1	1.6	23	8.2
産卵母貝の消滅		3	4.9	4	1.4
近縁種との競合	56	2	3.3	7	2.5
異種交雑	57	1	1.6	3	1.1
近文化進行	62			2	0.7
計		61	100	279	100

2003年R. D. B. で存続を脅かしている原因の一つとして
捕食者侵入が推察された魚種

捕食者	被捕食者	執筆者
ブラックバス・ブルーギル	イタセンバラ	河村功一
ブラックバス・ブルーギル	イチモンジタナゴ	河村功一
ブラックバス・ブルーギル	ニッポンバラタナゴ	河村功一
ブラックバス・ブルーギル	アカヒレタビラ	河村功一
ブラックバス・ブルーギル	オヤニラミ	細谷和海
ブラックバス・ブルーギル	シナイモツゴ	細谷和海
ブラックバス・ブルーギル	スジシマドジョウ	前畑政善
ブラックバス・ブルーギル	メダカ	林公義
ブラックバス・ブルーギル	ウツセミカジカ	後藤晃
ブラックバス	ミヤコタナゴ	新井良一
ブラックバス	ウシモツゴ	前畑政善
ブラックバス	ヤマナカハヤ	細谷和海
ブラックバス	ゼニタナゴ	新井良一
ブルーギル	カゼトゲタナゴ	木村清朗
ブルーギル	セボシタビラ	木村清朗
ブルーギル	カワバタモロコ	木村清朗
外来魚	アブラヒガイ	細谷和海
サギ類	トカゲハゼ	細谷誠一
カワスズメ	タメトモハゼ	鈴木寿之
カワスズメ	オガサワラヨシノボリ	鈴木寿之
オイカワ	キバラヨシノボリ	岩田明久
ハス	セボシタビラ	木村清朗
ワカサギ	ヤマナカハヤ	細谷和海
ニジマス	エソトヨミ	後藤晃